



例会:毎週水曜日 12:45~ 例会場:勇屋会館 事務所:安曇野市豊科 4312-6 奥村ビル2F

R.I テーマ

TEL:0263(73)2901 FAX:0263(72)3181 E-mail: [azumirc@poppy.ocn.ne.jp](mailto:azumirc@poppy.ocn.ne.jp)

会長 小穴 実 幹事 中村 忠

R.I 会長 ステファニー・A・アーチック ガバナー 白鳥敬日瑚

中信第一グループガバナー補佐 柴田博康

クラブ標語

【掘り興そう地域の宝(人脈)を、育もう仲間の連帯を!】

《環境月間》



## ★ 配布 ・幹事報告 No.31 ・第 10 回理事会報告

### ★ 会長挨拶

【小穴実会長】

皆さんこんにちは!

今日は 4 月の最終日ですが、五月晴れの大変良いお天気が続いています。

ゴールデンウィークの最中ではありますが、オンライン例会にご出席ありがとうございます。

ゴールデンウィークの前半が終わりましたが、皆さん如何お過ごしでしたでしょうか?お天気が良かったですから、ゴルフに旅行・田植えや溜まっていた家事を済ますなど有意義な日々を送られた事でしょう。



私は孫たちの世話をしながら隣国ソウルにてグルメやショッピングを楽しんでいました。

肌感覚と申しましょうか、物価が日本より2~3割ほど安い感覚でした。

ホテル代は日本とほとんど変わりませんが、タクシーや地下鉄は半額以下に感じられ、移動には地下鉄やタクシーをよく使いました。

巷では反日感情教育をされて何かと日本を敵視しているように思われがちですが、行く先々で孫たち(2歳と4歳ですが)と地下鉄に乗ろうものなら席を譲ってくれるなど日本人と分かっているとも友好的に接して頂き、この様なところは見習わなければと感じた次第です。

早速、帰りのモノレールではお子さんを抱っこしたお母さんに席を譲ってあげたところ大変感謝されました。感謝をされた気持ちを受け、徳を得たというところでしょうか。小さな親切、大きなお世話にならなければ、喜びは我が身に還って

くると言ったところで。

ただ、孫を抱っこしたり、アップダウンのきつい明洞の通りを長距離歩いたりと普段しない肉体を使いましたので、肘は関節痛、足は臀部から右足にかけ坐骨神経痛様に痛みが出てしまっています。こんなところ老いを感じている次第です。そのような訳で歩くのに不自由ですので、本日は自宅からの参加となります。

冗談はさておき、この連休中、松本ホテルブエナビスタで開催された全国インタラクティブ研究会が開催されました。全国から非常にインタラクティブに熱心なロータリアンの集まりです。当地区では初めて、信州友愛 RC が中心となり地区 IA 委員長の小池先生が在籍するインタラクティブの無い塩尻志学館高校が開催のサポートをした様です。

話は変わりますが、壱岐の羽田空港スイートラウンジで海鮮丼を頂きましたが、使われていたワサビがなんと井口会員のマルイさんのワサビでして地元企業が採用されている事に痛く感激しました。

さて、週末から連休の後半が始まります。私は5月5日連休のど真ん中に休日当番医を引き受けていますので5・6 日と休日当番医、訪問診療日に当て前半散財した分をしっかりと仕事の予定です。

どうぞ皆様におかれましても体調を崩さぬよう、GW 後半をお過ごし下さいませ。

それでは本日もよろしくお願いいたします。

## ★ 幹事報告

【中村忠幹事】

別紙参照

## ◇出席報告

会員総数 18 名 出席免除会員数 1 名	
本日の出席率	前々回(4月2日修正出席率)
出席者: 7 名	欠席者: 8 名
欠席者: 10 名	メキップ: 3 名
出席率: 41%	出席率: 72%

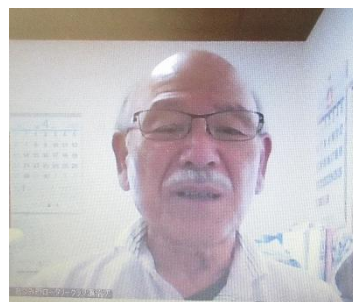
【下里 SAA 委員長】



## ★本日のプログラム

### 雑誌評論～ロータリーの友 4 月号～

【濱昭次会員】



今月の雑誌評論は、縦組も横組みも環境月間として、自然災害を取り上げており災害地における社会インフラとしての水、そして必要不可欠な避難所、そこに関わる人同士の自助・共助・公助、そしてボランティア、ボランティア団体、ボランティア活動、このことに特化して評論したいと思います。

まず横組みには、わたくし自身知識として何も持ち合わせておりませんが、イタリアが過去の歴史的な自然災害に苦しんできた事実が驚きながら、今日までに構築してきた防災に関する取り組みの比較が余りにも違いすぎることに、大変ショックを受けました。まず行政の役割ですが日本には防災専門の省庁がなく、内閣府防災担当が対応し小規模災害の救助主体は市町村、大規模災害は都道府県になるが、実施主体は市町村。これに対してイタリアにおいては、政府の内務省に市民保護庁があり災害対応の中心になっている。保護庁には常駐800人、各支援団体も同フロアで365日24時間モニタリング。全国4000のボランティア団体がれんけいする。

又、災害対応のスピードは大変重要だが、日本の「災害救助法」は災害発生後一定の被害が出てから適用され、72時間までは人命第一、避難所対応は遅延傾向。これに対してイタリアでは2009年のラクイラ地震発生時には、30分以内に対策会議、2時間後には支援トラック出発、12時間以内にトイレ・食事・寝床を提供した。

ここから、避難所に関してみておきたいが、目指せ防災のTKB48のキャッチコピーから、トイレ・キッチン・ベッドを48時間のうちに整備することを目指した取り組みがあるそうです。

日本と同様災害多発国であるイタリアでは、国が主導してこのシステムを取り入れていて、日本との違いを比較してロータリーが出来る可能性を見えています。

まずはトイレです。日本では簡易トイレが主流で電灯がなく夜間使用が困難。イタリアでは、発災後2日(48時間)以内に仮設トイレが到着、災害トイレはコンテナ型でシャワーや洗濯機、乾燥機、エアコン、電灯付き。

次はキッチンです。日本では配給される食事はカップラーメンや菓子パン、冷たいおにぎりなどですがこれを自分のスペースで食べる事が普通で、非衛生的。食寝分離が出来て

CONTENTS	
1 企画・編集	2 企画・編集
3 企画・編集	4 企画・編集
5 企画・編集	6 企画・編集
7 企画・編集	8 企画・編集
9 企画・編集	10 企画・編集
11 企画・編集	12 企画・編集
13 企画・編集	14 企画・編集
15 企画・編集	16 企画・編集
17 企画・編集	18 企画・編集
19 企画・編集	20 企画・編集
21 企画・編集	22 企画・編集
23 企画・編集	24 企画・編集
25 企画・編集	26 企画・編集
27 企画・編集	28 企画・編集
29 企画・編集	30 企画・編集
31 企画・編集	32 企画・編集
33 企画・編集	34 企画・編集
35 企画・編集	36 企画・編集
37 企画・編集	38 企画・編集
39 企画・編集	40 企画・編集
41 企画・編集	42 企画・編集
43 企画・編集	44 企画・編集
45 企画・編集	46 企画・編集
47 企画・編集	48 企画・編集
49 企画・編集	50 企画・編集
51 企画・編集	52 企画・編集
53 企画・編集	54 企画・編集
55 企画・編集	56 企画・編集
57 企画・編集	58 企画・編集
59 企画・編集	60 企画・編集
61 企画・編集	62 企画・編集
63 企画・編集	64 企画・編集
65 企画・編集	66 企画・編集
67 企画・編集	68 企画・編集
69 企画・編集	70 企画・編集
71 企画・編集	72 企画・編集
73 企画・編集	74 企画・編集
75 企画・編集	76 企画・編集
77 企画・編集	78 企画・編集
79 企画・編集	80 企画・編集
81 企画・編集	82 企画・編集
83 企画・編集	84 企画・編集
85 企画・編集	86 企画・編集
87 企画・編集	88 企画・編集
89 企画・編集	90 企画・編集
91 企画・編集	92 企画・編集
93 企画・編集	94 企画・編集
95 企画・編集	96 企画・編集
97 企画・編集	98 企画・編集
99 企画・編集	100 企画・編集

目次	
1 企画・編集	2 企画・編集
3 企画・編集	4 企画・編集
5 企画・編集	6 企画・編集
7 企画・編集	8 企画・編集
9 企画・編集	10 企画・編集
11 企画・編集	12 企画・編集
13 企画・編集	14 企画・編集
15 企画・編集	16 企画・編集
17 企画・編集	18 企画・編集
19 企画・編集	20 企画・編集
21 企画・編集	22 企画・編集
23 企画・編集	24 企画・編集
25 企画・編集	26 企画・編集
27 企画・編集	28 企画・編集
29 企画・編集	30 企画・編集
31 企画・編集	32 企画・編集
33 企画・編集	34 企画・編集
35 企画・編集	36 企画・編集
37 企画・編集	38 企画・編集
39 企画・編集	40 企画・編集
41 企画・編集	42 企画・編集
43 企画・編集	44 企画・編集
45 企画・編集	46 企画・編集
47 企画・編集	48 企画・編集
49 企画・編集	50 企画・編集
51 企画・編集	52 企画・編集
53 企画・編集	54 企画・編集
55 企画・編集	56 企画・編集
57 企画・編集	58 企画・編集
59 企画・編集	60 企画・編集
61 企画・編集	62 企画・編集
63 企画・編集	64 企画・編集
65 企画・編集	66 企画・編集
67 企画・編集	68 企画・編集
69 企画・編集	70 企画・編集
71 企画・編集	72 企画・編集
73 企画・編集	74 企画・編集
75 企画・編集	76 企画・編集
77 企画・編集	78 企画・編集
79 企画・編集	80 企画・編集
81 企画・編集	82 企画・編集
83 企画・編集	84 企画・編集
85 企画・編集	86 企画・編集
87 企画・編集	88 企画・編集
89 企画・編集	90 企画・編集
91 企画・編集	92 企画・編集
93 企画・編集	94 企画・編集
95 企画・編集	96 企画・編集
97 企画・編集	98 企画・編集
99 企画・編集	100 企画・編集

Rotaryの友 HP より



いない。

イタリアにおいては、キッチンカーが来て普段通りの食事が給仕される。ワインや生野菜なども提供される。そして、ボランティア登録をしたプロのシェフが対応してくれる。

最後にベッドです。主に床に直接雑魚寝するスタイルが一般的。この避難所の運営は、自治体ごとに異なり標準化されてはいない。イタリアにおいては、規格化されており家族単位で入れる丈夫なテントも提供されプライバシーが保護される。

さて、災害時イタリアに学ぶべき防災術は沢山有るが、大きく3点挙げると、ボランティア登録制度、これは日本のように無償支援者とは違い職能支援者と呼ばれる自身の職業を生かした支援を行う。8000ある自治体に対し様々なボランティア団体が約4000あり、国民の5%に当たる約300万人が各ボランティア団体に登録をして、年に数回訓練を受け(60時間)、災害に備えている。

次に、国のボランティア活動に対するバックアップである。連続30日及び年間90日を上限に災害ボランティア活動をする場合、雇用者はその職業上の地位と給料を保障しなければならない。又、雇用者には国から当該給与額の償還が行われる。

そして、いつも思うのは、日本には被災自治体が支援する義務がありますが、被災自治体の職員も被災者であり現状は過大な負担が掛かっています。その結果避難所のQOL(生活の質)が確保できなくなります。イタリアでは、避難所運営が標準化されていて、被災をまぬかれた自治体のボランティアが出動してくるので被災自治体は避難所運営をしません。ここが今の日本で災害が起きた時決定的に違うなと思う点です。

日本の自然災害の発生は、近年枚挙に暇がない程頻発しています。そんな中でイタリアに学ぶべき事はすぐにでも取り入れるべきことばかりだと感じます。

それから、横組みのトップに掲載されている谷口真人さんの「身近な水から未来の地球を考える」は、恐らくこの地球上で最も清浄な水を限りなく自由に手にすることのできる日本が、今年の元旦に発生した能登半島地震において、インフラとしての電気と水について、一軒の家が歴史的に長く自宅の庭から滾々と湧く井戸水の有難味を語り、復旧に何倍も時間のかかる電気をよそに、自宅の井戸水を近隣の人々に提供し、その後全国に災害時個人の井戸を提供する登録制度にまで広がりがつつあるとのことでした。

世界的に地下水が必要なのですが、人間社会が余りにも無計画の中で使ってきたため現在は地球が3.5個必要だそうです。

日本は、日本だけなら恵まれた水がありますが、でもだからこそ日本は地球の下ではすべてつながっているとの認識を持って大切にして行かなくてはならないと警鐘を鳴らします。

これからも自然災害はいつやってくるかわかりません。最も基本的な、災害絵の備えとして必要な「適応」と「緩和」このバランスと繰り返しの中で生きて行く事になる。

